

平成21年度 政策評価書（事後の事業評価）

担当部局：経理装備局艦船武器課
実施時期：平成21年11月～平成22年3月

事業名：新戦車

政策体系：4-1 研究・開発

事業内容：現有戦車の後継として、ライフサイクルコストを含めた経費を抑制しつつ、火力・機動力・防護力等の向上を図るとともに、IT革命に対応した高度なC4I機能等を付加させた新戦車を開発する。

(IT: Information Technology 情報技術)

(C4I: Command, Control, Communications, Computers, and Intelligence 指揮・統制・通信・コンピュータ及び情報)

経費総額：約484億円

○評価の内容

1 事業の目的

将来戦において優位な態勢を確立するには、高度なC4I機能、対象戦車を撃破できる火力、高い機動性及び総合的な防護力等が必要となるため、各種の能力を向上させ全国配備に適した新戦車を開発し、将来戦においても有効な対機甲戦闘・機動打撃及び特殊部隊攻撃対処等が行い得るようすることを目的とする。

2 達成状況

(1) 達成効果

以下の技術的課題を達成したことにより、火力・機動力・防護力等を向上するとともに、高度なC4I機能等を付加した新戦車を開発することができた。

ア 戦闘力の総合化

(ア) 小隊ネットワークによる接続等を確認し、他戦車等との情報共有化を達成した。

(イ) 目標情報融合機能等を確認し、共有化された情報に基づく射撃と運動の統制支援を達成した。

これらにより、戦車間や部隊との間で、収集した情報を共有し適時に活用できる高度なC4I機能を実現し、迅速・正確に火力と機動力を指揮統制できる能力が付加された。

イ 火力性能の向上

(ア) 弾薬の発射薬や飛翔体構造の最適化及び軽量高腔圧砲身の最適化等により、弾丸威力の向上を達成した。

(イ) 可視・赤外線画像の相関追尾処理方式の最適化等により、視察照準性の向上を達成した。

(ウ) 弾薬を保持する筒型ホルダー構造の最適化等により、自動装填装置の高外乱対応化を達成した。

ウ 機動力の向上

小型・軽量化した機関と変速比を最適に制御可能な無段階自動変速操向機との組み合わせにより、動力装置の高効率・高応答化を達成した。

これにより、国土地形における敏捷な運動を実現し、戦術機動性が向上した。

エ 防護力の向上

(ア) 複合装甲の構造・材質等を最適化し、装甲の軽量化及び小型化を行い、装甲部を車筐（注1）から着脱可能なモジュール型装甲の実装化を達成した。

(イ) 車両構造の最適化によるIRステルス性（注2）の向上や発煙弾発射機能の確認等により、間接的防護機能による防護力の向上を達成した。

これらにより、総合的な防護力及び将来の拡張性の確保を実現し、防護力が向上した。

オ 小型・軽量化

車筐部の材質・構造、搭載機器の配置・諸元及び装甲厚の最適化等により、小型・軽量化を達成した。

これにより、全国配備に適した重量及び砲塔・車体一体輸送を実現し、戦略機動性が向上した。

カ ライフサイクルコストの抑制

ライフサイクルコスト抑制のための活動計画の策定・実行、性能とコストのトレードオフを考慮したシステム設計、民生

品の活用、機能のソフトウェア化、構成品の統合化・共通化による部品点数の削減等を実施した。

(注1) 車筐：車体の骨格となる構造物

(注2) I Rステルス性：敵から、I R (InfraRed：赤外線) センサにより、発見されにくいこと。

(2) 達成時期

平成14年度から試作に着手し、当初の計画どおり平成21年度までに技術試験及び実用試験を終了し、開発を完了した。

(3) 教訓等事項

小型・軽量化をしつつ各種の能力の向上及び将来の拡張性の確保を実現し、技術基盤の育成に大きく寄与したものとする。

○今後の対応

今後、戦車部隊への整備を進める予定である。

○その他の参考情報

別紙1 新戦車の運用構想

別紙2 新戦車の概要

別紙3 現有装備品との比較及び諸外国の類似装備